

子どもや若者を家族資源としてだけ見ていませんか。

家族のケアを担う子どもや若者は

進学，就職や結婚など

人生の転機をどのように迎えているのでしょうか。

社会的課題として，

個別ケースから学びませんか。

2018年8月18日（土）

13：00～16：00（12：30開場）

子ども・若者ケアラーをテーマにした事例検討会

家族にケアを要する人がいる場合に，大人が担うようなケア責任を引き受け，

家事や家族の世話，介護，などを行っている子ども・若者世代を「子ども・若者ケアラー」と呼びます。

ケアが必要な人は，主に障がいや病気のある親や高齢の祖父母，きょうだいや他の親族のこともあります。

「身体的な介護」だけにとどまらず，下記のように，感情面のサポートも含めて幅広い「ケア」を含みます。

障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

家族に代わり，幼いきょうだいの世話をしている

障がいや病気のある家族の通院などをサポートしている

目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている

アルコール・薬物・ギャンブル依存などの問題のある家族に対応している

労働による収入が，家族にとって重要な収入源となっている

他の家族に代わり，買い物・料理・洗濯・掃除などの家事をしている

日本語が第一言語でない家族や障害のある家族のため通訳をしている

